

心豊かな世代が育つ

童話の里づくり

438

―シリーズ― あなたの人權・わたしの人權

「多様性を学ぶ私たちがすべきこと」

大分県立玖珠美山高等学校 一年

原 菜々子

2021年、今年は一年遅れのオリンピックイヤーだ。

コロナウイルスの影響で、開催するのかもしれないが、まだ議論が続いているが、テレビや新聞では、オリンピックというワードが飛び交っている。

しかし、同じようにはパラリンピックの話が聞こえてこない。

どちらも同じ四年に一度きりの大舞台なのに。

なぜ、日本ではパラリンピックは積極的に報道されないのか。私は不思議に思い、海外でのパラリンピックの位置づけを調べて驚いた。

国によって違いはあるが、特に「福祉の国」イギリスで、2012年に開催されたロンドンパラリンピックは

テレビで連日中継され、パラリンピック史上、最も成功した大会と言われているらしい。

イギリスでは、オリンピックもパラリンピックも区別するものではないのだ。

日本においてはどうかだろう。

パラリンピックを生中継するテレビ番組はほとんどない。

そもそも、障がいのあることを特別視しないということはまだ根付いていないと感じる。

人と同じことや普通であることが好まれるのだ。これは自己主張しない・和を重んじる国民性がそうさせているのかもしれないが、他者との違いに寛容でないことは、少し窮屈だ。

私にも有痛性外脛骨という小さな障がいがある。先天性の持病で、わずかな困りではあるが、人と同じことが出来ない時、それを公言するの

は少し勇気がいることなのだ。

多様性を学ぶことが増えた現在、

他者との違いは知識として学ぶ。

だが、私はこの学びが早く当たり前の世界になればと願う。

オリンピック選手もパラリンピック選手も、その素晴らしい努力と価値は同じだ。

そして、私たちもみなそれぞれ他とは違う部分を持っている。

互いを認め合い尊重することが当たり前の優しい社会に変えていくのは、私たちだ。

※この作文は令和3年1月期に投稿していただいた作文です。

この人權作文について、意見や感想、激励など、お寄せください。また、みなさんの投稿もお待ちしております。

わたしたちをとりまく様々な不合理や差別性について気づいたことや感じたことを二〇〇字程度にまとめて、住所、氏名、連絡先電話番号を記入して(匿名可)、玖珠町教育委員会社会教育課

「あなたの人權・わたしの人權」までお届ください。



「玖珠町介護者の会」を開催します

玖珠町介護者の会は、在宅で介護をしている家族の方々が交流し、悩みや日々の介護について話し合うことにより、心身の負担を軽減し、また介護者同士のつながりをもつことで、みんなでよりよい介護をすることを目的として開催しています。一緒にお話してみませんか。お気軽にご参加ください。お待ちしております。

対象者：在宅で介護をされている方

日時：1月25日(火)午前10時～11時30分

場所：北山田自治会館 会議室

問 福祉保険課 高齢者支援班 ☎(72)1115